

令和元年度

第3回 近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会

報告書

近江八幡市

目次

- | | |
|------------------|-----|
| 1. 概要 | P 1 |
| 2. 委員からの意見及び対応方針 | P 2 |
| 3. 講評 | P 5 |

参考資料

1. 設置要綱
2. 委員名簿
3. 事業シート
4. 議事録

1.概要

1. 懇話会設置の趣旨

まち・ひと・しごと創生法（平成 26 年法律第 136 号）第 10 条第 1 項の規定に基づき策定した近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略の推進に関して広く意見を聴くため。

2. 日時：令和 2 年 3 月 24 日（火曜日） 14 時 00 分から 16 時 30 分

3. 場所：近江八幡市役所 4 階 第 3・4 委員会室

4. 対象事業（カッコ内は担当課）

事業シート No.1	東近江地域広域婚活事業	(企画課)
事業シート No.2	未来づくりキャンパス事業	(企画課)
事業シート No.3	「戦国・安土」を活かした観光プロモーション	(文化観光課)
事業シート No.4	インバウンド誘致事業	(文化観光課)
事業シート No.5	観光動向調査・データ分析	(文化観光課)
事業シート No.6	近江八幡 0 次予防シェアリングプラットフォーム 形成事業	(健康推進課)
事業シート No.7	共生型居場所づくり & コグニウオーク	(健康推進課)
事業シート No.8	安寧のまちづくり (C C R C) 推進事業	(企画課)

5. 委員（敬称略・順不同）

- 秋村 田津夫（近江八幡商工会議所 常議員）
大嶋 英寿（近江八幡金融協議会／滋賀銀行八幡支店 支店長）
城念 久子（近江八幡市安寧のまちづくりプロデュース委員会 委員／オレガノ代表）
白須 正（龍谷大学 政策学部 教授） ※座長
土井 勉（一般社団法人グローバル交流推進機構 理事長）
江南 仁一郎（近江八幡市 副市長）

2.委員からの意見及び対応方針

各事業に対する委員からの主な意見及び助言と、それに対する担当課の対応方針（令和2年4月時点）

(1) 事業シートNo.1 東近江地域広域婚活事業

担当課：企画課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
事業の民間委託については、本当にコストが抑えられるのか見極め、総合的に判断されたい。	民間委託の是非については、コストも含め総合的判断で行います。
行政が行っているという信頼感が事業の大きなポイントになっている。民間委託とした場合も、行政のサポートが適切に伝わるよう工夫されたい。	民間委託を採用する場合は、行政がサポートしていることも適切に伝わるよう工夫します。
事前講習会の内容について、ファッションなど外面要素だけでなく、会話内容などの内面についての研修も重視されたい。	事前講習会では、外面だけでなく、婚活の本番での心構えなどメンタル面においても講習を行っています。

(2) 事業シートNo.2 未来づくりキャンパス事業

担当課：企画課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
人口定着を図る上では高校生は非常に大切な層となる。対象を高校生に絞ることを検討されたい。	ご意見を踏まえて対象を高校生に絞ることとし、高校生が本市への関心を深め、地域の課題解決や、本市で生活していくための生業について考えるきっかけとなるプログラムを検討します。
参加者が同級生や後輩に、参加して得た経験を伝えてくれる仕組みの構築を検討されたい。	事業実施前後での高等学校窓口との連携を深め、各学校へのプログラム内容の共有を図ると共に、成果発表会など、多くの高校生と学びの結果を共有できる機会を設けることを検討します。
近江八幡で何かしようとする人をサポートすべく、相談できる人材を何名か特定しておくべきである。	市内で活動する市民団体や、まちのキーマンにプログラムへの参画を打診するなどし、プログラム終了後も受講生たちの相談に乗ってもらえる体制づくりを図ります。

(3) 事業シートNo.3 「戦国・安土」を活かした観光プロモーション

担当課：文化観光課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
KPIの設定については、事業毎の内容によってそれぞれ適切な指標を設定すべきである。安土地域のミクロの観点で、効果的な検証が可能となる指標を設定されたい。	総合戦略における重要業績評価指標の設定はしていないが、今事業については安土地域に限定した「観光入込客数」を指標と設定し、効果的な検証を図ります。

(4) 事業シートNo.4 インバウンド誘致事業

担当課：文化観光課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
作成したPR動画について、新型コロナウイルス感染症が終息次第、すぐに活用できるよう準備されたい。	より効果的な発信ができ、またタイミングを逸することのないよう、活用の準備を進めます。

(5) 事業シートNo.5 観光動向調査・データ分析

担当課：文化観光課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
質問項目をより具体的にすることで、本当に活用できる調査結果となる。今後調査が行われる際には、検討されたい。	観光客の詳細な動向を把握し、地域の実情に即したより効果的な観光戦略の展開につながるような調査としてまいります。
ルート観光を企画するにあたり、トイレ整備が難問となることが多い。調査・分析にあたっては項目に含めることを検討されたい。	ご指摘のとおり、トイレの整備は来訪者満足度にも直結することから、次回の調査に項目を含めることを検討します。

(6) 事業シートNo.6 近江八幡0次予防シェアリングプラットフォーム形成事業

担当課：健康推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
常に一定数の人間関係を維持し、一人にしないことが有効な0次予防となる。そのような場所となるよう事業推進されたい。	来館された方へ、市民健康サポーターに対応していただくことにより、双方に接点生まれ交流が図られています。その結果、来館された市民が健康サポーターの活動を知ることによってボランティア活動への理解が深まり、生涯活躍への関心が高まる循環を生み出しています。
認定サポーターの確保に当たっては、社会環境の変容を考慮し、意欲のある人が参加しやすいように、職員のサポート体制を整えられたい。	意欲のある健康サポーターがモチベーションを維持し、質の高いボランティア活動を継続するための支援として、新たな知識や技術の取得及び、サポーター同士の情報交換や悩みを共有することができる機会を提供するため、健康サポーターの居場所づくりの整備を行います。

(7) 事業シートNo.7 共生型居場所づくり&コグニウォーク事業

担当課：健康推進課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
歴史や観光などの要素を取り入れるべく、他所属との連携を図られたい。	新たなコースの選定や情報発信にあたっては、関係課への情報収集・調整のもと取り組みを進めていきます。

(8) 事業シートNo.8 安寧のまちづくり（CCRC）推進事業

担当課：企画課

委員の主な意見	意見に対する担当課の対応
高齢者が将来的にも住みやすい環境整備の一環として、対象エリアにおける公共交通の在り方についても検討されたい。	現在移動手段については公共交通に頼らず、地域の自主的な取り組みの推進も検討しているところです。公共交通の在り方についても必要に応じ検討しながら、最期まで自宅や地域で住み続けることができるまちづくりを、様々な側面で考えながら進めていきます。
一般的な郊外型分譲住宅のようにも見受けられるため、高齢者に配慮した何らかの特徴を持たせた内容とすることを検討されたい。	宅地エリアの開発部分について、3/25に開催した安寧のまちづくり推進協議会を開催し、ご指摘いただいたご意見と同様の意見やまちを維持するためのルールの実現性がない等、結論として協議の進展も見込めないことから、当該事業を白紙にすべきとのご意見を受けました。事業自体の今後の方針については、内部で検討してまいります。 【西の湖エリア】

3.講評

令和2年3月24日に、令和元年度第3回目の近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会が開催された。

本会議は、「近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づく施策の推進に関して広く意見を聴くために設置されている。施策推進のための事業をより効果的に進めるためには、事後の評価・検証だけでなく、事業の実施にあたっては懇話会で意見を聞くことが必要であるということから、既に令和元年7月23日に、今年度の事業内容、事業の進め方などについて説明を受け、委員から意見、助言が述べられている。

今回は、7月の懇話会での議論を踏まえて今年度取り組んだ、①地方創生推進交付金の対象である6事業、②県自治振興交付金の対象である1事業、③これまで3年間継続して実施してきた「未来づくりキャンパス事業」、合わせて8事業について、担当部署から「事業シート」と、7月の懇話会が出された「委員からの意見及び対応方針」に基づき、要点を整理した説明を受けた後に、質疑応答、意見交換を行った。懇話会では、参加委員から数多くの質問、指摘、意見が出されたので、この内容をまとめ、講評とする。

事業シートNo.1「東近江地域広域婚活事業」については、カップル成立の割合も高く、今年度も9組18名のカップルが成立するなど、事業効果は高いと評価できる。この事業の直接的な目的ではないが、今の若者が結婚を躊躇する要因に子育てに対する不安があるので、それへの対応も必要である。来年度以降民間委託を検討するとのことであるが、行政機関が行っているという信頼感が大きなポイントになっており、民間に委託する場合でも、行政がサポートしているということを伝えていくことが大切である。

事業シートNo.2「未来づくりキャンパス事業」は、今年度は当初予定していた国の補助が得られなかったために、高校生が14名参加する1日限定のプロジェクトになってしまったが、事業のアフターフォローが十分できていないといった点からも残念であった。事業対象の中心に高校生を置くのは、人口定着を考えるうえで大切な層であり、適当と考えられる。対象となる高校生は市内在住者に限る必要はなく、市外在住者も含めて門戸を広げるべきである。近江八幡で何かやりたいと思っても、それを支援できる体制が不十分なので、フォローする体制の整備が必要である。

事業シートNo.3「戦国安土を活かした観光プロモーション」は、新規事業で、NHKの大河ドラマ「麒麟がくる」に合わせて安土をPRし、ロゴマークの制作・活用やJR安土駅のラッピング、ラッピングタクシーの運行など、積極的に観光振興を図ろうとしていることは評価できる。KPIは、近江八幡全体の観光入込客数になっているが、事業効果を正確に把握するためには安土の入込客数にするべきである。そのうえで、従来から安土エリアと旧近江八幡エリアをどう結びつけるかが課題であり、特産品や土産物の開発も含めて取り組むことが大切である。

事業シートNo.4「インバウンド誘致事業」については、制作したプロモーション動画も、今

は、新型コロナウイルス感染症の影響ですぐには活用できないが、終息した際にはすぐに使えるよう準備しておくことが大切である。活用場面は多様なので、プロモーションが可能となったタイミングで有効に活用できるようにして欲しい。

事業シートNo.5「観光動向調査・データ分析」は、アンケート調査の調査項目など詳細がわからないのでコメントしづらいが、満足度調査というのは、人によってベースラインが異なるので信用しすぎるのは危険である。ルート観光の最大の弱点がトイレの整備になることが多いので注意が必要である。もともと DMO 法人の設立が目標であったので、法人設立に向けた調査としての意義は評価するが、継続的に必要な数値を把握することが大切である。

事業シートNo.6「近江八幡 0 次予防シェアリングプラットフォーム形成事業」について、高齢者の健康維持にとって大切なのは人間関係の維持で、常に一定数の人間関係を維持し、一人にしないことが最も有効な 0 次予防である。意欲はあっても、介護や地域の用事などで参加しづらいと感じる人のためにも、職員の各取組における実績値が昨年度に比べて落ちているので、できる範囲での工夫が必要である。次年度予定にあるワンデイオーナー事業に期待する。

事業シートNo.7「共生型居場所づくり & コグニウォーク推進事業」は、市民が地元の良さを再発見しながら健康づくりにも取り組めるという、いい取組である。目標数には達していないが、企業の参加も得られている。参加者には一定のリピーターも含まれ、今後も、魅力あるコースを設定し、楽しめる工夫を取り入れながら進められたい。

事業シートNo.8「安寧のまちづくり (CCRC) 推進事業」について、西の湖エリア (静かな水辺で暮らすタイプ) については、以前は駐車場が多いイメージであったが、公共交通についても考える必要がある。高齢者向けの要素についても考える必要がある。今後、沖島 (レイクサイドの暮らしタイプ)、老蘇 (晴耕雨読の暮らしタイプ) 地域の事業を進めるにあたって、近江八幡市の特性に合わせ、地域の方の意見を取り入れながら進めて行くことが重要である。

以上、各事業に対する懇話会の指摘、意見を簡潔に整理したが、各委員から多くの意見、指摘が出されるとともに、行政からも内容や考え方について説明が行われ、施策の推進に向けた建設的な議論が交わされた。

最後に、事業全体を通じて、委員から次のような意見が出された。

- ・年度を重ねるごとに取組が順調に進んでいる印象である。
- ・それぞれの事業で市民参加がなされているはずであるが、市民の顔が見えてこない。議論に参加してもらうだけでなく、実際に交流してもらえるよう仕向けることも大切である。

(総括)

「近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は今年度が最終年度であるが、次期に向けた国の指針が示されたのが昨年 12 月であり、近江八幡市では、現行の戦略を 1 年間延長し、来年度に新しい戦略を策定するという段取りになっている。

本懇話会が発足したのは 3 年前の 3 月 (平成 29 年 3 月) であるので、この間 4 年間の事業について意見交換してきたことになる。今回の報告も含め、「近江八幡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」懇話会で報告された事業については、近江八幡市が中心となって着実に取組み、

成果をあげつつあるといえる。事業内容も、今年度も新規案件が2件含まれているように、この間、事業の追加・見直しもされている。

ただ、安寧のまちづくり（CCRC）推進事業のように戦略の柱と思われる事業もあるが、継続事業でややルーティン化しているのではないかと思われるものも見受けられる。現在、新しい戦略の策定が進められているが、これまでの取組を踏まえる中から、新たな事業が生みだされ、それに対して懇話会として議論し、意見を述べることを期待するものである。

結びにあたり、今回報告された事業に関して、その大部分について着実に取組が進み、成果をあげていることを改めて評価するとともに、これまでから指摘しているように、掲げられた事業は相互に関係するものも多く、庁内間の横連携はもちろん、関係組織、団体とも連携、協力することで、効果的な事業の推進を図ることが重要である。

今回の懇話会での指摘を踏まえ、対象事業がより効果的、効率的に進められ、一層の成果が生まれることを期待する。

近江八幡市まち・ひと・しごと創生懇話会座長 白須 正